受講の流れ

コースのスケジュール〈受講総時間数：67時間〉

2026年　11月　12月　2027年　1月　2月　3月　4月　5月　6月　7月

受講申し込み期間　2027年1月31日まで

オンデマンド配信期間　～2027年6月30日まで

修了認定

履修証明書交付

※**修了要件**：総計67時間を履修すること。配信期間のうち、2027年5月12日までにすべての課題が提出されていること。

26時間　基礎科目　ガイダンス・基礎編　基礎理論・概論

オンデマンド学習（一部対面）　課題提出期限 **2027年3月23日まで**

資格講習 ※別途申込　　資格講習 ※別途申込

25時間　分野別基礎・応用科目　分野別5科目

オンデマンド学習（一部対面）　課題提出期限 **2027年5月12日まで**

※**資格講習**は、別途定められた期間内に受講のこと（詳細は本パンフレット5ページを参照）

16時間　実地実習・フィールドワーク／ディスカッション

対面講義 **2027年3月13日（土）午後**　フィールドワーク（対面） **2027年5月15日（土）午後**

ディスカッション・プレゼンテーション（対面）
2027年5月29日（土）・6月12日（土）・26日（土）
※計3回、いずれも午後実施

※上図は受講の一般的な流れであり、個人の学習の進め方により変わります。
※最長約6ヵ月・51時間（30講義）のオンデマンド学習（一部対面）です。各科目ごとに課題提出期限が定められているため、ご自身の業務等に合わせて履修計画を立ててください。

受講申込要領　詳細は募集要項（別紙）をご覧ください

出願書類　信州大学講座販売EC サイト「SHIN-LEARN」のコース詳細より、募集要項・出願書類（様式）をダウンロード
https://www.shin-learn.shinshu-u.ac.jp/
リカレント学習プログラム推進本部Webサイト
https://www.shinshu-u.ac.jp/education/recurrent/
「開講中のプログラム」からも各種書類を入手できます。

出願方法　①「SHIN-LEARN」にて会員登録後、講座をご購入
②事前にご準備いただいた出願書類をアップロード
※出願書類の内容をもとに選考いたします。

お申込みはこちら

第2期（2025年度）受講者の声

満足度評価※ 4.73 ★★★★★ GX ベーシックコース

※2025年度実績 5段階評価による平均

Aさん（長野県外在住）
様々なサステナビリティ系のカリキュラムを受けましたが、これほどわかりやすく、興味を持って全動画を視聴できるコースは初めてで驚きました。

Bさん（長野県内在住）
GXの動向と課題を一定のレベルで捉え、実際の業務を中心に活かすことができました。

Cさん（長野県外在住）
講義範囲が幅広く、GXに関する多様な分野を体系的に学ぶことができました。

Dさん（長野県内在住）
ディスカッションでは他の参加者と多くの意見に触れることができました。それぞれの背景がありつつ同じゴールを目指して考えるという有意義な機会をいただきました。

受講までの流れ

募集要項・出願書類入手（SHIN-LEARNより） → 出願（SHIN-LEARNより応募） → 受講資格審査（約3週間） → 結果通知・受講料支払い通知 → 受講資格付与 → 受講開始

お問い合わせ　国立大学法人 信州大学

教育・学生支援機構　リカレント学習プログラム推進本部
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
TEL:0263-37-2428
https://www.shinshu-u.ac.jp/education/recurrent/

リカレント学習プログラム推進本部ホームページ

文部科学省 職業実践力育成プログラム（BP）認定
厚生労働省 特定一般教育訓練指定講座
長野県産業人材カレッジ認定講座

SHINSHU UNIVERSITY

グリーンで成長・変革する社会へ

Green Transformation Basic Course

GX

2026年度

ベーシックコース

特別の課程（履修証明プログラム）

対　象　さまざまなGX関連分野、製品・サービス等に関わられている皆様へぜひ受講していただきたいコースです。

→ 「GX」「サステナビリティ」「カーボンニュートラル」「ESG」など、環境を取り巻くトレンドを学びたい
→ 行政機関、各種団体等の脱炭素化プロジェクト等においてどのようなアクションが必要なのか学びたい
→ 脱炭素経営、サステナビリティ経営を掲げている、または長期的に取り組んでいきたい企業の皆様
→ カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミー等の分野に興味がある　など

申込受付期間　2026 11.16（月）～ 2027 1.31（日）
※上記期間内は随時お申込みが可能です　※定員に達し次第、締め切ります

受講期間　2026 12.1（火）～ 2027 6.30（水）
※申込時期に応じて随時受講開始

総時間数　67時間（e-Learning（Some classes are in-person） 51時間 / Field & Discussion 16時間）

受講料　70,000円（消費税込）　**定　員**　25名

主催：信州大学 教育・学生支援機構　リカレント学習プログラム推進本部
協力：信州大学 サステナブル社会協創機構

いま、「GXを学ぶ」意義

昨今、企業や地域において、持続可能な社会の実現に向けた取り組みや事業活動が活発に行われています。その背景では、「GX(Green Transformation)」や「SX(Sustainable Transformation)」といった経済社会システム全体の変革、経営のあり方を変革する「イノベーション人材」の活躍が期待されています。GXは、経済社会システムや産業構造の転換が求められることから、一部の産業や企業のみの取り組みではなく、全産業界が横断的に、かつ消費者や住民の方、自治体や教育機関、金融機関等を巻き込んだ新たな地域社会・企業の成長、創造を模索し、発展するために必要なサステナビリティ活動について理解を深めていくことが必要です。

信州大学のGXベーシックコースは、

信州(長野県)の「自然資本」である地勢・地域資源を地財と捉え、環境、社会、経済の持続性や地域産業の発展を視野に入れた学びであることがポイントです。さらに、環境や社会の課題を多角的かつ本質的に把握し、新たな企業価値創造を目指すヒントとなるような体系的なカリキュラムにより、社会全体のGX推進、サステナビリティ経営を支援します。

GXベーシックコースの
カリキュラムマップ

信州大学の教育シーズ、信州のフィールドで「GXを学ぶ」

1 コース全体をサマライズ、オーバービューし、持続可能な社会への認識・理解を高めます。

基礎 Basic

ガイダンス・基礎編

- GXの社会的背景
- 第六次環境基本計画
- 気候変動とその影響
- 分散型社会・コミュニティ

カーボンニュートラル
ネイチャーポジティブ
サーキュラーエコノミー
ウェルビーイング

基礎理論・概論

- 脱炭素・カーボンニュートラル社会の実現
  - 地域の環境サステナビリティ
  - プラネタリー・バウンダリー
  - カーボンニュートラル、緩和と適応
  - 生態系サービスとネイチャーポジティブ
  - サーキュラーエコノミー
- サステナビリティ経営／ESG金融
  - サステナビリティ経営・ケーススタディ
  - コレクティブイノベーション
  - ESG金融と資金調達
  - サステナビリティ評価と情報開示
- 評価手法／サプライチェーン・バリューチェーン
  - ライフサイクルアセスメント(LCA)
  - サプライチェーンマネジメント・バリューチェーン分析
  - GHG削減、排出量の可視化(炭素会計)

2 自社のGX化プログラムをデザインするための基礎を学びます。また、関連する産業・業界を多角的にみることで、より理解度を深めます。

Area 分野別

分野別基礎・応用

1 まちづくり
2 防災・減災/ 社会インフラ×エネルギー
3 観光産業・レジャー関連産業
4 農業
5 製造業・ものづくり産業

学びの循環

3 事業や取り組みに対する環境配慮、脱炭素化対策、それらによる企業価値・地域価値の向上、地域との共創等についてプランを作成します。

実地実習・ディスカッション

学びの循環

学びのポイント整理

POINT 1 GXによる経済・社会の構造変革

地域にとっては

①地域の産業振興
②地域社会の活性化
③地域の自然・文化の継承
④雇用対策・人材育成

地域の課題解決をGX推進から目指す、企業人材の育成・連携

脱炭素化、カーボンニュートラル、サステナビリティ推進は喫緊の課題

企業にとっては

地域の産業界等(のニーズ)と連携し、新たな企業価値の創造を目指す

POINT 2 企業・生活者の意識、行動変容

企業や組織等において、環境・エネルギー問題やサステナビリティ活動の推進企画・実行を担い、既存事業の変革・新規事業の戦略立案など意識改革を先導する**イノベーション人材**の育成

POINT 3 リカレントによる学び アカデミア中心ではなく、実務とのバランスを確立

- 社員個人が知識を高める場として
- 異業種・多世代同士の学びの環境

GXベーシックコース　開講にあたって

GXベーシックコース監修者より

信州大学　サステナブル社会協創機構
特任教授 **夫馬 賢治**
株式会社ニューラル代表取締役 CEO



いま私たちの社会は、数百年に一度というレベルの変化を迎えています。まさに産業革命以降に持続可能でなくなった人類社会にとって新しい挑戦の時代が始まりました。GXベーシックコースでは、環境サステナビリティを実現するための手段となっている「カーボンニュートラル」と「ネイチャーポジティブ」を理解し、この2つがもたらす産業の変化をいち早く見通し、新たな産業革命を先導できる人を養成するマネジメント講座です。特に信州大学の強みを活かし、環境サステナビリティの観点から本質的な地方創生を実現するためのポイントを学んでいきます。規模にかかわらず、企業、金融機関、市民団体、行政からの積極的な受講をお待ちしています。

リカレント学習プログラム推進本部より

信州大学　副学長
(エンロールメント・マネジメント担当)
学術研究・産学官連携推進機構 教授 **林 靖人**



社会変化の速度は、「ドッグイヤー」「マウスイヤー」を越え、いまや「AIイヤー」とも呼ぶべき時代を迎えています。一方で、私たちは「人生100年時代」に突入しました。高校や大学を卒業した後も、生涯にわたって学び続けることが、継続的な成長やWell-beingの実現に欠かせません。なかでも、GXやSX(Green Transformation / Sustainable Transformation)は、これからの社会を考えるうえで特に重要です。私たちにとっては「変革」に見えるものも、次世代にとっては社会の「前提」となるからです。この認知のギャップを埋め、一人ひとりの行動変容を後押しするために、GXベーシックコースが誕生しました。GXへの移行は、待ったなしです。このメッセージに共感いただいた皆様と、ご一緒に学べることを楽しみにしています。

受講対象

- ◆一般企業・金融機関等のサステナビリティ推進、ESG担当の方
- ◆脱炭素経営、サステナビリティ経営を経営戦略に掲げる企業の経営者の方・担当の方
- ◆経営コンサルタント、自治体、各種団体等の脱炭素・SDGs担当の方
- ◆温暖化対策、環境負荷低減等に貢献する技術・商品化、ビジネスデザインの提供等の担当の方
- ◆カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミー(循環型経済)等の分野に興味があり、環境価値の利用・創出による経済社会革新(GX)ビジョンを構築したい方
- ◆信州大学を卒業された社会人の方(継続的な学び、学びの循環として)　など

プログラム全体の構成

本コースは大きく「基礎科目」、「分野別基礎・応用科目」、「実地実習・ディスカッション」から構成されます。基礎から応用へ徐々に学びを深めていきます。講義はe-Learning(オンデマンド配信、及び一部オンライン・対面)で、最長6ヵ月間で51時間を学ぶスタイルです。各科目、各講義の詳細は次ページ以降をご覧ください。

基礎科目
4科目
17講義
コース全体をサマライズ、オーバービューし、GXの基礎的な理解、持続可能な社会への認識・理解を高めます。
「**ガイダンス・基礎**」及び「**基礎理論・概論**」

分野別基礎・応用
5科目
13講義
自社のGX化プログラムをデザインするための基礎を学びます。また、関連する産業・業界を多角的にみることで、より理解度を深めます。
「**まちづくり**」「**防災・減災 / 社会インフラ×エネルギー**」
「**観光産業・レジャー関連産業**」「**農業**」「**製造業・ものづくり産業**」

基礎科目

ガイダンス・基礎編

- GXの社会的背景
- 第六次環境基本計画の概要
- 長野県における気候変動とその影響
- 気候変動と分散型社会

基礎理論・概論

科目1 脱炭素・カーボンニュートラル社会の実現
- 地域の環境サステナビリティ
- 環境サステナビリティとプラネタリー・バウンダリー
- 気候変動とCN*
  気候変動課題への取り組み－緩和と適応
- 生態系サービスとネイチャーポジティブ
- サーキュラーエコノミー(循環経済)

科目2 サステナビリティ経営/ESG金融
- サステナビリティ経営概論
- サステナビリティ経営・ケーススタディ
- サステナビリティ経営とコレクティブ・イノベーション
- ESG金融と資金調達
- サステナビリティ評価と情報開示

科目3 評価手法/サプライチェーン・バリューチェーン
- ライフサイクルアセスメント(LCA)
  サプライチェーンにおけるサステナビリティ
- サプライチェーン・マネジメントとバリューチェーン分析
  〈GHG削減、排出量の可視化〉

炭素会計アドバイザー資格 講習

分野別基礎・応用科目

分野別基礎・応用科目

分野別科目1 まちづくり
- コンパクトシティ
- エコロジカル・ランドスケープ

分野別科目2 防災・減災/社会インフラ×エネルギー
- 防災・減災対策とグリーンインフラ
- CN達成に向けた省エネ建築とエネルギー利用
- 再生可能エネルギー開発の適地選定と地域共生

分野別科目3 観光産業・レジャー関連産業
- これからの持続可能な観光
- 地域の実例～乗鞍高原におけるサステナブルツーリズム
- 地域×サステナビリティ－スポーツクラブ

分野別科目4 農業
- 農業の現状と課題
- 持続可能な農業を実現するスマート農業の社会実装

分野別科目5 製造業・ものづくり産業
- イノベーションとビジネス・システム
- 日本発のサーキュラーエコノミー型ものづくり産業の構築
- 我が国のGX推進の考え方

実地実習・ディスカッション

実地実習・ディスカッション

フィールドワーク・ケーススタディ
サントリー天然水北アルプス信濃の森工場
環境配慮型工場の取り組み～水資源
- 社会の持続性に関わる水循環
  大町市「水を活かしたまちづくり」

ディスカッション・戦略プラン策定
振り返り、環境・社会問題、自社課題に対する戦略策定
プランのピアレビュー
グループディスカッション

プレゼンテーション
プレゼンテーション
フィードバック

*CN　Carbon Neutral の略

GXベーシックコース　講義の紹介

基礎科目　ガイダンス・基礎編

BG1 GXの社会的背景
2時間

信州大学 サステナブル社会協創機構
特任教授 茅野 恒秀
法政大学 社会学部教授

世界的な課題である気候変動の現状とその対策の趨勢に関する全体像を理解します。その際、グローバル経済から長野県の地域社会に至る課題の連動性に着目することによって、長野県という地域に根ざしたGX人材としての基本的視座を獲得します。

〈概要〉
本講義は、GXベーシックコースの導入的位置づけとなります。
1.気候変動の現状と世界が目指す脱炭素社会の構想の全体像
2.世界水準で明瞭になっている脱炭素社会への具体的変革方法
3.地域課題解決と連動した脱炭素社会実現の考え方
4.地域における脱炭素社会づくりの政策動向と課題
講義では、IPCCやIEAなど国際機関の最新の知見と、講師が地域密着型で行ってきた研究と支援の実践経験の双方をふまえて展開します。

キーワード #脱炭素 #カーボンニュートラル #エネルギー効率化とエネルギー転換 #サステナビリティ・トランジション #地域課題解決とゼロカーボンの政策統合

BG2 第六次環境基本計画の概要
1時間

環境省 大臣官房 総合政策課
環境計画室 室長 黒部 一隆

環境基本計画の主旨を理解し、環境政策に関する理解を深めます。

〈概要〉
令和6年5月21日に閣議決定された第六次環境基本計画では、現下の環境・経済・社会の危機を踏まえ、環境を軸とした環境・経済・社会の統合的向上の次なるステップを示しています。すなわち、環境保全とそれを通じた現在及び将来の国民一人一人の「ウェルビーイング／高い生活の質」を目的に据え、「環境価値」を活用した経済全体の高付加価値化等により、市場的価値と非市場的価値を引き上げる「新たな成長」の実現が重要となります。本講義では、本計画について概説するとともに今後の環境政策の方向性について述べます。

キーワード #ウェルビーイング #自然資本 #統合・シナジー #「地域循環共生圏」の構築による「新たな成長」の実践・実装

BG3 長野県における気候変動とその影響
1時間

長野県環境保全研究所 自然環境部
（信州気候変動適応センター）
部長 浜田 崇

気候変動とその影響は身近なところでもすでに現れていることを科学的なデータによって確認し、自分の身の回りにそのような影響があるかないかを考えます。

〈概要〉
世界、日本の気候変動の実態とその影響の概要について触れた後、長野県内で観測・解析された各種のデータに基づき、県内の気候変動（主に気温、雨、雪）のこれまでの推移や気候モデルによる将来予測の結果について説明します。また、農業、生態系、防災、健康などの分野における県内の気候変動影響予測についても紹介します。

キーワード #長野県の気候変動 #農業 #水資源 #生態系 #自然災害 等の分野における気候変動影響

BG4 気候変動と分散型社会
2時間

信州大学 農学部 農学生命科学科
山岳圏森林・環境共生学コース
准教授 内川 義行

気候変動がもたらす都市社会への影響について知り、分散型社会の意義と基礎的考え方を習得します。

〈概要〉
1.気候変動と分散型社会
気候変動が都市型社会にもたらす各種のリスクとそれに対する対策等の動きに対して、分散型社会がもつ特性や、既往災害時における対応の実態、および各種エネルギー利用事例などから、今後のあるべき姿の方向性を模索します。
2.分散型社会のためのコミュニティ計画
地方・農山村地域において、分散型社会の構築におけるコミュニティの重要性、主な対象となる農山村地域におけるコミュニティ計画の特徴や、その将来像について学びます。

キーワード #気候変動 #分散型社会 #食 #エネルギー #農山村地域 #コミュニティ計画

基礎理論・概論　科目1　脱炭素・カーボンニュートラル社会の実現

B11 地域の環境サステナビリティ
1時間

信州大学 サステナブル社会協創機構
特任教授 夫馬 賢治
株式会社 ニューラル CEO

カーボンニュートラルとネイチャーポジティブの双方の観点から、長野県の環境サステナビリティの現状や対策に向けた施策について学びます。

〈概要〉
地球規模で語られることの多い環境課題は、実際にはローカルの単位で影響を及ぼしています。気候変動と生態系サービス・生物多様性の課題が地域社会に与えている影響や対策を長野県を題材にして深堀りすることで、他の地域社会でも有効な視点を学びます。

キーワード #カーボンニュートラル #ネイチャーポジティブ #長野県 #地方自治体 #水系 #農村

B12 環境サステナビリティとプラネタリー・バウンダリー
1時間

公益財団法人
地球環境戦略研究機関(IGES)
フェロー 天沼 伸恵

1.プラネタリー・バウンダリーの概念についての説明、
2.環境サステナビリティの現状と背景を理解し、日常生活や自身が携わる職業分野との関連について説明できることを目指します。

〈概要〉
地球環境の現状をプラネタリー・バウンダリーの概念をもとに概観し、環境サステナビリティに向けた世界の動向を紹介します。

キーワード #環境サステナビリティ #プラネタリー・バウンダリー #持続可能な開発目標（SDGs） #2030アジェンダ

B14 生態系サービスとネイチャーポジティブ
1.5時間

信州大学 サステナブル社会協創機構
特任教授 夫馬 賢治
株式会社 ニューラル CEO

生物多様性や生態系というテーマの中核概念となる生態系サービスとネイチャーポジティブの実現方法を学習します。

〈概要〉
カーボンニュートラルと並ぶ国際環境目標となったネイチャーポジティブは、陸域、淡水域、海水域における生態系がいかに人間社会と密接に関係しているかを理解しつつ、世界が持続可能になるレベルまで再生していこうというものです。本講義では、生態系サービスの概念を理解するとともに、企業の分析手法、目標設定の置き方、アクションの設定などを学習します。また、地方創生とネイチャーポジティブは非常に関係が深く、地方創生への活かし方についても習得します。

キーワード #生態系サービス #プラネタリー・バウンダリー #TNFD #SBTN #地域資源 #地方創生

B13 気候変動とカーボンニュートラル 気候変動課題への取り組み ー緩和と適応
2時間

信州大学 農学部 農学生命科学科
山岳圏森林・環境共生学コース
教授 安江 恒

地球温暖化問題について、科学的、社会学的な視点から問題点を的確に把握分析することができることを目標に、そのために、気候変動の原因とそれによって生じる現象の基礎を学び、解決方法としての適応策および緩和策について、取り組むべき課題について考えます。

〈概要〉
地球温暖化および社会のカーボンニュートラル化の課題について、主に農林業の視点から解説します。
1.地球温暖化と温室効果ガス、温室効果ガスインベントリ
2.気候変動緩和策 ―森林と木材による吸収、気候変動適応策 ―農林業における適応策、カーボンニュートラル社会と地域産業の活性化

キーワード #農林業 #温室効果ガス #インベントリ #気候変動緩和策 #炭素固定 #気候変動適応策 #カーボンニュートラル社会

B15 サーキュラーエコノミー（循環経済）とは
1.5時間

信州大学 サステナブル社会協創機構
特任教授 春日 秀之
hide kasuga グループ 代表

サーキュラーエコノミー（CE）の正しい認識を習得します。

〈概要〉
1.現状の把握
プラとCO2の増加は比例、リニアエコノミーとサーキュラーエコノミー、循環型経済
2.サーキュラーエコノミーの起源
欧州には哲学・倫理の上に循環型経済を構築している
3.サーキュラーエコノミーin EUの背景
フランスとドイツを中心とした欧州は経済戦略があり、CEの規格化を推進、CEを教育に取り入れている（哲学・倫理・戦略）

キーワード #温暖化 #プラとCO2 #リニアエコノミーとサーキュラーエコノミー #循環型経済 #欧州CE

基礎科目　基礎理論・概論

基礎理論・概論　科目2　サステナビリティ経営 / ESG金融

B21 サステナビリティ経営概論
1時間

信州大学 サステナブル社会協創機構
特任教授 夫馬 賢治
株式会社 ニューラル CEO

ESGの観点を踏まえたサステナビリティ経営の概念を理解します。

〈概要〉
サステナビリティ経営が既存の経営手法と異なるポイントを学習していきます。サステナビリティ経営が普及することになった背景や、サステナビリティ経営の発展過程についても学習します。

キーワード #ESG #マテリアリティ #サステナビリティ #バックキャスティング #中長期目標

B22 サステナビリティ経営のケーススタディ
1時間

信州大学 サステナブル社会協創機構
特任教授 夫馬 賢治
株式会社 ニューラル CEO

「サステナビリティ経営概論」を土台としたケーススタディを学びます。

〈概要〉
「サステナビリティ経営概論」で学んだ内容を土台としつつ、長野県内の中堅・中小企業を題材とし、各企業がどのようにサステナビリティ経営を実践していけるかを考察します。

キーワード #サステナビリティ経営 #ケーススタディ #経営資源

B24 サステナビリティ経営とコレクティブ・イノベーション
1時間

信州大学 サステナブル社会協創機構
特任教授 夫馬 賢治
株式会社 ニューラル CEO

サステナビリティ経営に不可欠なコレクティブ・イノベーションの手法について学習します。

〈概要〉
サステナビリティ経営では野心的な中長期目標を掲げることになりますが、それを達成するために不可欠なイノベーションの概念を学習します。特にサステナビリティ経営においては、社内でのイノベーションだけでなく、ステークホルダーとの連携を通じたコレクティブ・イノベーションが重視されますが、その背景や具体的な手法を学びます。

キーワード #ステークホルダー資本主義 #イノベーションのジレンマ #システムシンキング #チェンジマネジメント

B25 ESG金融と資金調達
2時間

信州大学 サステナブル社会協創機構
特任教授 夫馬 賢治
株式会社 ニューラル CEO

金融機関とコーポレートファイナンスの双方の観点からESG金融の手法を学習します。

〈概要〉
サステナビリティ経営を遂行するためには、一般的に大きな資金需要を伴うため、戦略的に資金調達することが求められます。そこで誕生したのがESG金融であり、その範囲は広く、株式、債券、融資、プライベートエクイティ、ベンチャーキャピタル、ヘッジファンドにまで及んでいます。また、投融資以外にも、保険業務や、投資銀行（証券）業務にもESGの概念は普及してきています。ESG金融の狙いや手法について学びます。

キーワード #ESG金融 #ESG投資 #ESG債（サステナブルボンド） #ESG評価 #タクソノミー #サステナビリティ関連財務情報開示 #インパクト投資

B26 サステナビリティ評価と情報開示
2時間

東急不動産ホールディングス株式会社
グループサステナビリティ推進部
部長 松本 恵

サステナビリティの評価と情報開示について、企業の実務事例を通して体系的に学び、企業がサステナビリティに取り組む背景と必要性、情報開示の概要、ESG投資など関連する外部評価について理解を深めます。

〈概要〉
企業の具体的な実務事例を交えて理解します。
1.サステナビリティの評価と情報開示の概要
2.サステナビリティ評価の方法
3.情報開示の事例紹介
4.今後の課題

キーワード #サステナビリティ #ESG評価 #情報開示 #企業の持続可能性

＊講義B23は、2026年度休講

基礎理論・概論　科目3　評価手法 / サプライチェーン・バリューチェーン

B31 ライフサイクルアセスメント（LCA）ーサプライチェーンにおけるサステナビリティ
2時間

一般社団法人 サステナブル経営推進機構 (SuMPO)
事業本部長 鶴田 祥一郎

LCAの概要と実施方法、LCAの活用方法を理解します。

〈概要〉
近年、製品やサービス等のライフサイクルを通じた定量的な環境負荷評価手法としてライフサイクルアセスメント（LCA）が注目されています。LCAにおいては地球温暖化のほか、資源消費や水消費といった他の環境影響領域も評価可能です。プロセス改善や製品・サービス等の環境負荷開示といったエコデザインとしての活用はもちろんのほか、ISOに基づく環境情報コミュニケーションとしてのEPD、国内外で法規制を含めた形で政策においても活用が検討されています。本講義においてはLCAの算定方法のほか、国内外における動向、また活用事例などについて紹介します。

キーワード #ライフサイクルアセスメント（LCA） #製品環境宣言（EPD） #データベース

B32 サプライチェーン・マネジメントとバリューチェーン分析
1.5時間

株式会社SuMPO NEXT
ソーシャルソリューション開発事業部
ディレクター 中澤 克仁

サステナビリティ観点での企業および製品・サービスの「サプライチェーン・マネジメント」手法であるGHGプロトコルScope1～3およびLCAの概念と具体的な算定手法を習得すると共に、企業のサステナビリティ経営戦略の立案に向けた「バリューチェーン分析」の手順と活用方法の理解を目指します。

〈概要〉
2030年の温室効果ガス排出量46%削減（2013年度比）を目指すさまざまな施策を実効性ある活動として推進していくには、企業および製品・サービスによる環境影響を包括的に分析・評価し、課題に向けた有効性ある施策として適用していく必要があります。本講義では、企業および製品・サービス単位での「サプライチェーン・マネジメント」手法として温室効果ガス（GHG）プロトコルScope1～3及びLCAを取り上げ、概要と詳細な算定方法を学ぶと共に、「バリューチェーン分析」を通じた企業のサステナビリティ経営戦略立案の手順および活用事例について紹介します。

キーワード #サプライチェーン・マネジメント #バリューチェーン分析 #LCA #GHGプロトコル #サステナビリティ経営戦略

対面　2027年3月13日（土）（場所:松本キャンパス）
※後日オンデマンド配信

B33 炭素会計アドバイザー資格講習（オンライン講習受講）
2.5時間

資格対策

一般社団法人
炭素会計アドバイザー協会

本講習の受講により、企業・団体・自治体等におけるカーボンニュートラル推進や、金融機関においてカーボンニュートラル推進に関する企業等へのコンサルティングに携わる方々の業務遂行に役立つ知識到達レベルを目指します。また、産業面全般において生じる「サプライチェーンを含めたGHG排出量の把握」、「パリ協定が定める水準と整合したGHG中期削減計画の立案」及び「国際会計基準に合致した気候変動に関する情報開示」等を支援する実践的な活動ができる知識を習得します。

〈概要〉
企業等がカーボンニュートラルを達成するためにGHG排出量をいかに測るか、そのためには産業界において業種を超えて協調していくことが必要です。その基準の一つとなる「炭素会計アドバイザー資格制度」と連携し、一般社団法人炭素会計アドバイザー協会の資格試験対策テキストを用いたオンライン講習を受講します。

キーワード #カーボンアカウンティング #GHG排出量の把握 #Scope1,2,3 #サプライチェーン

取得を目指せる資格

「炭素会計アドバイザー資格 3級」とは

炭素会計アドバイザー資格3級は、「環境省認定制度 脱炭素アドバイザーベーシック」に認定されています。中小企業と接点の多い地域の主体（金融機関の営業職員、商工会議所の経営指導員、企業支援に携わる士業の方、地方自治体の方等）、企業の脱炭素経営・サステナビリティ推進担当者が、企業（自社向け・対取引先）に対し、気候変動対応の必要性の説明、脱炭素経営・排出量削減に関する相談内容を正しく把握でき、脱炭素化へのアドバイザーとして機能することが求められています。3級では、これから気候変動関連業務に携わる方々に対し、業務上求められる基本知識を体系的に学習いただくことを目的としています。
詳しくは炭素会計アドバイザー協会ホームページ（https://www.caai.or.jp/licence/index.html）をご覧ください。

講習方式：資格試験対策テキストの閲覧 /動画視聴（各受講期間中は何度でも視聴可）
講習費用：3級（受験資格講習）一般6,380円／会員3,300円
（いずれも税込。**当GXベーシックコースとは別に受講者様でのお申込みが必要です。**
法人会員にご所属の方は自社の窓口担当者にご確認いただき、専用URLからアクセスしてください）
実施時期：2026年10月26日～2027年3月31日（申込期間：2026年10月26日～2027年3月20日）
2027年4月26日～2027年9月30日（申込期間：2027年4月26日～2027年9月20日）
※申込・受講方法の詳細は、受講される皆様へご案内いたします。

分野別科目1 まちづくり

A11 コンパクトシティ
2時間

信州大学 工学部 水環境・土木工学科
助教 森本 瑛士

将来的な都市像について、長期的・広域・他分野のことも踏まえながら考えることができるようになり、その際には従来の視点に加えて(DX・)GXの視点も含めて考えることができるようになることを目指します。

〈概要〉
現在の都市問題について紹介したのち、コンパクトシティを始めとした今後の持続的なまちづくりについて、DX・GXの視点を踏まえつつ学習します。

キーワード #コンパクトシティ #SDGs #スマートシティ #MaaS #まちづくりDX・GX #交通DX・GX

A12 エコロジカル・ランドスケープ
2時間

信州大学 大学院 総合理工学研究科
特任教授 小川 総一郎

GX(NX*)が果たすべき役割を理解したうえで、ネイチャーポジティブの実践手法である「エコロジカル・ランドスケープ」の理念をご自身の立場から取り組むとしたら、どのようなことができるか明らかにすることでGX(NX)プログラムを推進する人財育成に貢献することを目標とします。 *NX:Nature based Transformation

〈概要〉
1.環境政策の経緯
2.エコロジカル・ランドスケープ
3.設計事例
4.実証研究でのGX(NX)展開

キーワード #エコロジカル・ランドスケープ #ネイチャーポジティブ #グリーンインフラ

＊講義A13は、2026年度休講

分野別科目2 防災・減災 / 社会インフラ × エネルギー

A21 防災・減災対策とグリーンインフラ
2時間

信州大学 工学部 流域治水研究センター
特任教授 吉谷 純一

グリーンインフラが持つ防災・減災上の機能と特性を体系的に理解し、地域固有の課題や環境条件の分析、他分野の専門的知見を統合したグリーンインフラ施策を検討するとともに、防災・減災に資する具体的な地域計画・施策を立案し、論理的に提案・説明できる力を身につけます。

〈概要〉
1.グリーンインフラ推進計画の実例と防災・減災施策の詳細を理解した上で、
2.河川を中心とする治水、利水、環境の諸施策の実例を、社会的背景との関連性と共に学びます。さらに、
3.統合水資源管理と呼ばれる近年の施策実施の要諦を議論します。

キーワード #グリーンインフラ #災害リスク #脆弱性 #想定最大規模 #多面的機能 #河川管理 #統合水資源管理

A22 カーボンニュートラル達成に向けた省エネ建築とエネルギー利用
2時間

信州大学 工学部 建築学科
教授 高村 秀紀

カーボンニュートラル達成のために建築物が対応すべきZEB(ネット・ゼロ・エネルギービル)やZEH(ネット・ゼロ・エネルギーハウス)について達成のための技術を理解します。また、再生可能エネルギーとして、太陽光発電のみならず下水熱利用や地中熱利用ヒートポンプなどについてその仕組みと省エネルギー効果、バイオマスエネルギーについて理解します。さらに、建築物の省エネルギーとまちづくりの関係について理解し、ZEBやZEHは省エネルギーのみならず、災害対応や健康にもメリットがあることを理解します。

〈概要〉
・ZEB、ZEHについて、建築物の外皮性能および省エネ設備の省エネ効果
・再生可能エネルギーである下水熱や地中熱(地下水)を利用した建築設備の仕組みと省エネ効果
・都市に存在し、十分利活用されていないエネルギー、バイオマスエネルギーの活用方法
・省エネ建築(建物単体)と地域全体の省エネの関連
・企業や個人がすぐに取り組むことができる省エネ対策とその効果

キーワード #カーボンニュートラル #ZEB #ZEH #BCP(事業継続計画) #再生可能エネルギー

A23 再生可能エネルギー開発の適地選定と地域共生 -電力系統・防災・土地利用・ゾーニングの実務
2時間

株式会社アドバンス
代表取締役専務 尾高 智明

再生可能エネルギー事業の立地判断を、自然条件だけでなく、電力系統への接続可能性、災害リスク、土地利用・許認可、地域の合意形成の各観点から総合的に捉えます。

〈概要〉
・太陽光発電、小水力発電、蓄電所の開発事例
・発電資源、土地の権利関係、森林・農地等の法規制、周辺環境を重ね合わせる適地選定・ゾーニングの考え方
・高圧・特別高圧の違い、配電線・変電所等の系統制約、立地選定との関係
・ハザードマップだけでは把握しきれないリスクと現場確認の重要性
・景観意識、自治体、住民等との対話、実効性のあるゾーニングと地域共生の条件

キーワード #再生可能エネルギー #適地選定 #ゾーニング #高圧・特別高圧系統 #接続検討 #ノンファーム型接続 #防災・減災 #ハザードマップ #地域共生 #地域便益 #小水力発電

分野別科目3 観光産業・レジャー関連産業

A31 これからの社会と持続可能な観光
2.5時間

公益財団法人 日本交通公社
副主任研究員 藤本 直樹

コロナ禍以降、国内外でサステナブルツーリズムが改めて注目を集めています。しかし、その概念は幅広く、さまざまな立場・視点から語られることで、その全体像が見えづらくなっています。本講義では、サステナブルツーリズムをめぐる視点を整理するためのフレームワークを提示し、同概念の全体像を理解した上で、今後各主体に求められる対応について検討できるようにします。

〈概要〉
サステナブルツーリズムを複合体として捉えた上で、それらを構成する要素に分解し、構成のパターンとして一般化することで、サステナブルツーリズム全体の輪郭を可視化します。その中で、新たな概念として登場しているレスポンシブルツーリズムやエシカルツーリズム、リジェネラティブツーリズム等について、国内外の事例を紹介しながら、それらが登場した背景について解説します。加えて、2050年の脱炭素社会の実現に向けた観光地の取組状況についても報告します。

キーワード #サステナブルツーリズム #レスポンシブルツーリズム #脱炭素 #カーボンオフセット

A32 地域の実例から学ぶ -松本市乗鞍高原におけるサステナブルツーリズム-
1時間

松本市 総合戦略局 アルプスリゾート整備本部
プロジェクトマネージャー 浜口 みのり

持続可能な観光(サステナブルツーリズム)について、松本市乗鞍高原における具体的な取組事例をもとに理解を深めます。

〈概要〉
コロナ禍が収束し、海外からの観光客が増加する中、日本各地で観光産業が活気づいています。持続可能な観光(サステナブルツーリズム)はグローバルスタンダードとなっており、各観光地では具体的な実践が求められています。本講義では、まず持続可能な観光の定義とその背景を理解したうえで、日本で最初のゼロカーボンパークに登録された松本市乗鞍高原を事例として、ローカルな視点から持続可能な観光の実践について学びます。

キーワード #持続可能な観光 #ゼロカーボン #松本市 #乗鞍高原 #地方創生

A33 地域×サステナビリティ -スポーツクラブが地域の未来に与える影響とは
1.5時間

株式会社 松本山雅
代表取締役 CEO 横関 浩一

松本市を拠点とする松本山雅FCを一つのケーススタディとして、スポーツと地域社会、サステナビリティの関係について考えます。

〈概要〉
スポーツクラブには、人を集め、人と人をつなぎ、企業・行政・学校など多様な主体をつなぐ力があります。本講義では、松本山雅FCが地域との関わりの中で取り組んできた事例を紹介しながら、スポーツクラブが地域に生み出す価値について考察します。

キーワード #地域活性化 #サステナビリティ #スポーツビジネス #地域共創 #社会課題 #脱炭素 #GX #次世代育成 #健康 #ウェルビーイング #地域コミュニティ #非財務価値

オンライン 2027年4月13日(火)
※後日オンデマンド配信

分野別科目4 農業

A42 農業の現状と課題 ～農業GXとの関連で～
1時間

信州大学 農学部 農学生命科学科
食料生産システム科学コース
准教授 若林 剛志

農業に関する基礎的な知識を農業経済学の視点から習得するとともに、現状や動向を認識し、持続的な農業のあり方を考える力を身につけます。

〈概要〉
農業の現状と特徴について、統計データを紹介しながら概説します。
個々の経営および農業が抱えている課題を捉えるとともに、農業を取り巻く社会情勢に関する認識を高め、国内農業におけるスマート農業などの技術的投資の必要性について理解します。

キーワード #農業経営 #生産性の向上 #投資 #みどり戦略

A44 持続可能な農業を実現するスマート農業の社会実装
2時間

株式会社ハタケホットケ
代表取締役 日吉 有為

水田除草ロボット「ミズニゴール」の独自機構による社会実装プロセス、循環型ビジネスモデルを通じ、農業を過酷な重労働から知的産業へと転換し、環境・企業・社会価値を同時に創出する農業GXのあり方を構想します。

〈概要〉
1.背景と問題意識(日本農業の構造的危機と有機農業の壁)
2.現場発の技術開発と実証研究(ミズニゴールの誕生と試行錯誤)
3.実装化までの成果と全国展開
4.トータルソリューションへの進化とビジネスモデル
5.創出される企業価値・社会価値と農業の未来

キーワード #スマート農業 #社会実装、環境再生型農業 #みどりの食料システム戦略 #水田除草ロボット #準天頂衛星「みちびき(CLAS)」 #食料安全保障 #地域サポーター(シェアリングエコノミー) #ソーシャルビジネス

＊講義A41、A43は、2026年度休講

分野別科目5 製造業・ものづくり産業

A51 イノベーションとビジネス・システム
2.5時間

信州大学 経法学部 応用経済学科
教授 橋本 規之

イノベーションとビジネス・システムの視点から、実際のビジネスの事例を検討し、社会的価値あるいは顧客価値を創造し、獲得し、維持する方法について学びます。

〈概要〉
前半は、日常生活でもよく耳にするようになった「イノベーション」という概念をとりあげて、その特徴と、社会的に有用な価値の創造について考えます。後半は、顧客価値を導きの糸として、ビジネス・システムのあり方を検討します。各種の理論・分析概念とビジネスの実例との往復を通じて、創造した価値を獲得・維持する事業の仕掛けと活動体系のマネジメントについての理解を深めていきます。

キーワード #イノベーション #新結合 #連続性と非連続性 #顧客価値 #企業家 #リスク #5つの発見力 #視点の反転 #不確実性 #破壊的イノベーション #ビジネス・モデル #ビジネス・システム #経営資源 #組織能力 #補完性 #好循環 #CFT分析

A52 日本発のサーキュラーエコノミー(循環経済)型ものづくり産業の構築
2.5時間

信州大学 サステナブル社会協創機構 特任教授 春日 秀之
hide kasuga グループ 代表

日本発のサーキュラーエコノミー(CE)構築に向けた社会、自然環境、ビジネスの課題と対策を学習します。

〈概要〉
・サーキュラーエコノミー in 日本
世界の循環経済圏に対して日本ならではの強みが必要、産学官が連携したCEを構築するリーダーの育成が急務
・サーキュラーエコノミーの取り組み
CEの基軸となる環境調和型素材「TRANS WOOD」、新旧融合型生活様式「令和モダニズム」、産学官連携型CEコンソーシアム「GCH by hide k 1896」、人材育成の活動

キーワード #サーキュラーエコノミー #ライフスタイル #環境調和型素材 #ものづくりのブランド化 #マーケティング戦略 #アップサイクル #開発からマーケティングへの一気通貫

A53 我が国のGX推進の考え方
2時間

天達 泰章
内閣府経済社会総合研究所 政策参与

GXは、2050年までの脱炭素化(カーボンニュートラル)と、我が国の産業競争力強化・経済成長の同時実現を目指し、今後10年間に官民協調で150兆円超のGX投資を実現することとしています。本講義では、GX推進の考え方と産業を理解します。

〈概要〉
1.我が国におけるGX推進の考え方
2.GX産業について、開発・実証されている革新的脱炭素(環境)技術、洋上風力プロジェクト等による地域経済への貢献(地域創生)について説明

キーワード #GX #ペロブスカイト #洋上風力 #水素サプライチェーン

対面 2027年3月13日(土)(場所:松本キャンパス)
※後日オンデマンド配信

実地実習・フィールドワーク ディスカッション

対面 実地実習・フィールドワーク
6時間

2027年5月15日(土曜日・午後)

事前講義:2027年3月13日(土)

サントリー天然水北アルプス信濃の森工場(長野県大町市)／大町市役所

地域企業及び地域社会が抱える社会課題等への気づきや学びを得ます。事業や取り組みに対する環境配慮、脱炭素化対策、それらによる企業価値・地域価値の向上、地域との共創等についての講義とともに、その対象地や施設を実際に視察することにより学びの循環を図ります。

〈概要〉
1.サントリープロダクツ株式会社担当者より、CO2排出量ゼロ工場のエネルギー供給スキームなど、環境配慮型工場の講義及び視察を実施
2.本学教員より、地域や社会の持続性に関わる水循環について、大町市担当者より、「水」を活用したまちづくり、SDGs未来都市計画、みずのわプロジェクト等の産学官金の連携・協働について、また地域企業と連携した環境教育等について講義を実施

Day	概　要	
3月13日(土) 午後(1時間)	事前講義 (場所:松本キャンパス) ※後日オンデマンド配信	**社会の持続性に関わる水循環** 信州大学 理学部 理学科 物質循環学コース 准教授 榊原 厚一
5月15日(土) 午後(5時間)	視察・ フィールドワーク	**サントリー天然水北アルプス信濃の森工場／大町市** 大町市、市内企業による講義、ディスカッション

対面 ディスカッション
10時間

(場所:松本キャンパス)
2027年5月～6月実施(土曜日・午後)

信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 教授 林 靖人

知識学修と実地実習で得た知識をもとに、環境・社会問題、自社(地域・企業等)での課題に対する戦略を考えます。

Day		概　要
1	5月29日(土) 午後(4時間)	個人ワーク・ディスカッション (自社(地域・企業等)での課題に対する戦略検討、プランのフレームワーク化)
2	6月12日(土) 午後(3時間)	個人ワーク・ディスカッション (プランのピアレビュー、事業戦略、企業価値向上等について考察)
3	6月26日(土) 午後(3時間)	プレゼンテーション・フィードバック (各人によるプレゼンテーション及び講師によるフィードバック)

※対面講義、フィールドワーク、ディスカッションの時間・会場等の詳細なご案内は、受講される皆様のみにお知らせいたします。